

令和5年度第2回船橋市総合教育センター運営委員会 会議録

1 出席者

(1) 運営委員

兼坂 尚貴	船橋市中学校長会 (船橋特別支援学校長)
鬼崎 あずさ	船橋市小学校長会 (前原小学校長)
白石 正義	千葉県教育研究会船橋支会小学校教育研究部 (三咲小学校 教諭)
藤井 友理子	千葉県教育研究会船橋支会中学校教育研究部 (三田中学校 教諭)
松澤 秀則	学識経験者 (千葉工業大学 教授)
山本 稔	学識経験者 (元宮本小学校長)
池田 枝里	社会教育関係団体 (船橋市PTA連合会)
茂木 義久	市の職員 (指導課長)
藤井 好実	市の職員 (社会教育課長)

(2) 事務局

太田 由紀	所長
矢澤 基裕	副所長
神田 順子	教育支援室長
七條 三千代	総務係主査
高橋 憲史	研究研修係副主幹
豊田 浩久	情報教育係副主幹
鰐部 裕実	特別支援教育班副主幹
八巻 知子	教育相談班副主幹
相田 慶子	サポートルーム「ひまわり」副主査

2 次第

(1) 開会

(2) 令和5年度事業報告について

- ・総務係
- ・研究研修係
- ・情報教育係
- ・特別支援教育班
- ・教育相談班
- ・サポートルーム「ひまわり」

(3) 質疑応答

(4) その他

(5) 事務連絡

(6) 閉会

### 3 議 事

兼坂尚貴 委員長	令和5年度の事業報告について、各係・班からお願いいたします。なお、全ての説明が終わった後、質疑応答の時間を設けますので、よろしくお願いいたします。
七條三千代 主査	<p>着座にて失礼いたします。</p> <p>総務係の七條から事業報告を行わせていただきます。総務係の主な事業内容は、1点目「厳正な予算執行」、2点目「適切な文書管理」、3点目「環境整備」の三つです。</p> <p>1点目の予算執行については、当初の計画通りに運用し、問題なく処理しております。来年度の予算案については、時代に応じた観点、将来的な観点を持ち編成し、本日開会の議会の承認を待つ状況です。</p> <p>2点目の文書管理については、各班、係ごとに市の決まりに則って適正に処理しています。</p> <p>3点目の施設設備の修繕については、お手元の事業報告書の4ページ中段を併せてご覧ください。今年度を実施いたしました主な修繕内容を記載しました。この建物は建築されてから36年を経過していることから劣化が進み、様々な箇所不具合が生じ、修繕しなくてはならない箇所が増えてきています。来所者や職員の安全を第一に考えて、計画的に進めていきたいと考えております。</p> <p>課題と来年度の方向性につきましては、今後も計画的な施設修繕を行っていくことです。また、業務改善を念頭においた、更なる事務の効率化を目指します。機器等の整備に加え、計画的な業務遂行を心掛けてまいります。</p> <p>以上で総務係の報告を終わります。ありがとうございました。</p>
高橋憲史 副主幹	<p>研究研修係の高橋です。着座にて失礼いたします。</p> <p>今年度の研究研修係の事業内容についてご報告します。事業報告書5ページをご覧ください。令和5年度の事業内容は、全部で15の事業を行いました。そのうち、</p> <p>(1)の教育関係職員研修の企画運営について、画面を使用して説明したいと思います。</p> <p>学校教育に関する研修を73、学社連携に関する研修を1、動画視聴による研修を2、合計で76研修を実施しました。研修を受講した延べ人数と、研修後に実施したアンケートによる研修の満足度を示します。成果としては、企画した研修内容については、一定程度の満足を感じてもらえる内容であったという点です。課題としては、希望研修の受講者数が少ないという点です。アンケートによる満足度は高い結果でしたので、「受講してみたら内容は良かった」という評価ではないかと考えております。今後は、希望研修の受講者が多くなるよう周知していくことが必要であると考えます。</p> <p>次に研修の様子についてです。左側は新任教頭研修におけるマスコミ対応講座、右側は希望研修の授業改善研修の様子です。左側のように対話的な研修を行ったり、右側のように1人1台の端末を使用するなどして研修を運営してきました。また、写真はありますが、対面による研修だけでなく、オンラインによる研修も実施しました。次年度においても、研修内容や研修方法について検討し、工夫改善に努めます。</p> <p>最後に、研修事業における「課題と来年度への方向性」です。</p> <p>1については、文部科学省が示している「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、教師の学びも変えていく必要があります。これまでのように座って聞いているだけの</p>

	<p>研修から、主体的・対話的で深い学びにつながるように、研修を企画運営していきます。2については、千葉県・千葉市教員等育成指標が改訂され、「特別支援教育」と「ICT利活用」の柱が新たに加わりましたので、この育成指標と研修との整合性がとれるよう計画していきます。3と4については、引き続き学校や受講者のニーズをしっかりと把握し、「受講したい」と思ってもらえるよう希望研修を計画していきたいと考えます。</p> <p>教職員の育成のため、今後もより良い研修を企画運営していきます。その他の事業報告につきましては、報告書の8ページから19ページをご覧ください。</p> <p>以上で、研究研修系の報告を終わります。</p>
<p>豊田浩久 副主幹</p>	<p>情報教育係の豊田です。座って説明させていただきます。</p> <p>今年度の事業報告をさせていただきます。事業報告書の10ページをご覧ください。第1回センター運営委員会で説明した四つの主な事業内容のうち、今年度の主な取り組みについて報告させていただきます。</p> <p>初めに、ICTを活用した児童生徒の資質能力の育成についてです。二宮小学校が11月21日に研究最終年度の公開研究会を行いました。市内の児童生徒の情報活用能力を高めるため、管理職やGIGA推進教員に向けて研究の成果を発表しました。当日は小学校1学年から6学年まで各学年1クラスと特別支援学級の授業を公開しました。あわせて言語通級指導のオンライン指導も公開しました。全体会では、放送大学客員教授の佐藤幸江先生より講演をいただき、その後ブロックごとに情報交換を行いました。</p> <p>続いて研究公開の結果です。アンケートのグラフの結果から参観者が自校でも生かせる有意義な研修だったと考えられます。感想・意見ですが白丸が肯定的な意見、黒丸は消極的な意見となっています。感想・意見から1人1台端末を活用した授業を実際に見たことで、参観された先生方がGIGAスクール構想の目指す授業をイメージできたかと思います。</p> <p>次に、教職員のICT活用指導力の向上と人材確保についてです。本年度8月に委託業者が市内教職員を対象にICT支援員の満足度調査を行いました。満足度については令和3年度が90%、令和4年度93%、令和5年度が97%と3年連続で増加しています。導入3年目で業務内容が明確になってきたことや支援員と教職員の間関係が深まってきたのが好結果につながっていると考えられます。表を見てもすべての質問で高評価を得ており整備した効果が表れています。教員のICT活用指導力を高めるためにもICT支援員の存在は欠かせません。本年度、令和6、7年度のICT支援員の整備を行い、次年度以降も同じ事業者となりました。今後は支援内容も柔軟に変更できるよう、事業者と引き続き協議してまいります。</p> <p>ICTを活用するための環境の整備についてです。12月に児童生徒数が600人以上在籍する37校に高性能のルーターを設置しました。今回で大規模校の接続問題については解決のめどが立ちましたが、対象校ではない中規模校については、今後活用状況を確認しながら整備を検討してまいります。</p> <p>ICT環境の整備運用についてですが、充電ケーブルの破損紛失が増えてきたため、充電ケーブルの予算について、第1回市議会定例会で提出しております。平成28年、中学校2年生普通教室に入れた電子黒板174台を小学校と同じ自立式液晶型電子黒板へ</p>

	<p>リプレースする件については、次年度、研究指定予定の七林中学校を先行でリプレースし、令和7年度以降に全学年そろえてリプレースする方向で関係課と調整をしております。</p> <p>最後に、ICT推進体制の整備と校務の改善についてです。学校と保護者間の連絡手段のデジタル化ですが、今年度、船橋学校配信メールのサービス終了に伴い、1月から学校安心メールを整備しました。メールの送受信、アンケート機能の他に新機能として、お便り等の添付ファイル機能、欠席遅刻の連絡機能など新機能が追加されたことで、ICTの活用による校務の効率化がさらに進むと考えております。</p> <p>以上で報告を終わらせていただきます。</p>
<p>鰐部裕実 副主幹</p>	<p>特別支援教育班です。よろしくお願いいたします。事業報告書の24ページをご覧ください。特別支援教育班では、事業内容の中で特に5点に重点を置いて各学校への指導、支援を行ってまいりました。</p> <p>初めに就学相談および教育相談の状況です。就学相談とは、小学校入学前のお子さんに関する就学先の相談です。昨年度に比べて、相談件数が増加しております。</p> <p>次に校内支援体制への支援・指導についてです。巡回相談員については希望があった学校へ派遣し、学校の校内支援体制づくりや配慮が必要な児童生徒への支援についてアドバイスしました。支援員の配置については、学校訪問等で学校の状況を確認し、必要な学校へ配置しております。毎年、支援員を増員しており、12月現在で126名を配置することができました。しかしながら要望はまだ多いことから、今後も増員していく計画です。学校支援ボランティアに関しましては、市民の協力や大学の協力をいただき、ボランティアを派遣しております。</p> <p>次に、特別支援教育の推進についてです。乳幼児期から学校卒業後までの一貫した支援体制の整備を図るため、船橋市特別支援連携協議会を年間2回開催しております。作業部会では、引継ぎのための連絡票の見直しを行いました。引継ぎのための連絡票を作成している側と受け取る側双方にアンケートを実施し、個別の支援計画とリンクしやすいものにするにはどうしたらよいか検討しました。第2回の連携協議会は2月15日に行われますので、そこで方向性を検討していく予定です。</p> <p>次に特別支援教育に関する理解を広めるための事業として、合同作品展、合同発表会、教育講演会を実施しました。今後も子どもたちの活動を通して特別支援教育の理解推進に努めて参ります。</p> <p>次に、特別支援学校のセンター的機能についてです。この事業の強化のため臨床心理士と言語聴覚士を配置し、小・中学校へ派遣を行い支援の充実を図りました。</p> <p>次に、特別支援学級の整備についてです。今年度、新たに二和小学校、芝山西小学校、古和釜小学校、湊中学校、葛飾中学校へ自閉症・情緒障害特別支援学級を、開設いたしました。また、令和6年度は、小栗原小学校、丸山小学校に知的障害特別支援学級を、法典西小学校、薬田台南小学校、御滝中学校、七林中学校に、自閉症情緒障害特別支援学級を新規開設予定です。今後もニーズを把握し整備を進めてまいります。</p> <p>次に、教職員への支援および指導についてです。今年度から音声による読み上げ機能のあるデイジー教科書を市で取りまとめて申し込めるようにし、様々な場面で周知</p>

し、活用を進めてきました。各障害者にわかれて行う特別支援学級担任研修や各小中学校における特別支援教育に関する研修会において、センターの指導主事が教職員への支援および指導助言を行いました。特に今年度は ICT の利活用についても助言を行ってきました。支援が必要な児童生徒に関する要請訪問等も行い、特別支援教育に関する指導力の向上を図りました。

次に特別支援コーディネーター研修についてです。昨年度までのアンケート結果等を参考にし、研修内容をより実践的にしたり、グループ討議を行ったりして、研修内容を工夫いたしました。来年度も受講者が課題意識を持って主体的に参加できるように計画してまいります。

最後に課題と来年度の方向性についてです。特に標記 5 点について力を注いでまいります。

1 点目の教職員の特別支援教育に関する指導力の向上と人材育成については、研究研修係と連携して研修を計画し、専門家等の活用も積極的に図ってまいります。2 点目の障害のある児童生徒の学びと切れ目ない支援体制については、引継ぎのための連絡票の効果的な活用や、個別の指導計画の作成について、引き続き指導していきます。また、特別支援学級のニーズが増えていることから、特別支援学級の新規開設を毎年 5、6 校ずつ行っていく計画です。3 点目の特別な支援を要する児童生徒への支援の充実については、通常の学級に在籍する障害がある児童生徒が増えていることから、支援員の増員を進めていきたいと考えております。4 点目は特別支援における ICT の利活用についてです。研究校の実績をもとに、各学校に広がっていくよう指導していきたいと考えております。5 点目のライフステージに応じた支援の充実については、関係各課と連携しながら、スムーズに情報共有ができる方法を検討していきたいと考えております。

以上で特別支援教育班の事業報告を終わります。

八巻知子  
副主幹

教育相談班の八巻です。教育相談班の活動についてご報告いたします。事業報告書の 28 ページをご覧ください。

1 の事業目的、2 の事業内容についてはお読みください。3 の事業報告、(1) 教育相談活動についてです。令和 5 年 12 月 31 日現在、延べ件数で電話相談が 1890 件、面接相談が 1001 件、訪問相談が 160 件となっており、合わせて 3051 件でした。今年度も不登校に関する相談が多く寄せられました。人間関係を築くことが不得手であったり、学習内容の定着が困難であったりと、相談内容も多種多様です。不登校の理由も様々で、理由がわからずに不登校になるケースや理由がどの項目にも当てはまらないものも見られました。児童生徒に合ったスモールステップを提案したり、本人や保護者と相談しながら、学校と連携を図ったりすることで児童生徒が安心して学校生活を送れるよう努めています。

このグラフは、電話相談と面接相談の内容別の割合です。電話相談、面接相談においても不登校と性格行動の中に分類されている登校しぶりの相談が非常に多くあります。不登校の相談は、電話相談だけでは解決困難のものが多く、面接相談が長期化することもあります。

この表は来所相談の内容別に、継続しているケースを表しています。性格行動の中に分類されている登校しぶりについては、取り出してまとめました。どの相談も継続率が50%以上となっています。特に登校しぶりの相談は継続率が高くなっております。児童生徒に合ったスモールステップで、学校と連携したり、児童生徒の状況状態を確認したりしながら相談を進めております。

こちらは不登校の理由をまとめたものです。不登校となった主たる理由としては、明確な理由がはっきりしない、もしくは、要因を1つに絞れない「不明」が80%と圧倒的に多くありました。面談の中で話を聞いていると、「学習について行けない」

「コミュニケーションがうまくいかない」「集団が苦手」など複数の要因がからみあっているケースが非常に多く、一つ一つに対する困り感や不安感を解消するためにどのようにしていったら良いかを本人の気持ちに寄り添いながら、保護者・学校とも連携しながら丁寧に進めております。

次は(3)学校や関係機関との連携についてです。不登校児童生徒に対する支援として、このように連携してまいりました。親子並行面接を基本とし児童生徒の状態を十分見極め、学校との連携を中心に、段階に応じた居場所の提案として関係機関それぞれの特色を生かした連携をすすめてきました。

次は(6)のスクールソーシャルワーカー配置事業についてです。本年度からスクールソーシャルワーカーは全中学校区内の拠点校と市立高校に配置されました。派遣申請については今まで同様、校長から要請を受け、拠点校から在籍校へ訪問し、支援を進めます。ケースによって支援は異なり、必要に応じてケース会議を開き、学校、関係機関、スクールソーシャルワーカーが役割分担をし、それぞれの専門性を活かして支援を行っています。

次に派遣申請数です。昨年度からの継続ケースは75件です。本年度は12月末日で、228ケースの派遣申請がありました。拠点校配置としたことで、ねらいとしていた早期発見・早期対応が実現できているものと捉えております。

相談内容は、複数の内容が絡み合っているケースが少なくありません。派遣申請を受けた228件のうち、約73%が不登校を主訴とするものでしたが、その背景には家庭環境、発達やネグレクトを含む児童虐待・DV・ヤングケアラーの疑いのあるケース等も多く潜んでおり、次に挙げる関係機関との連携や役割分担が重要になります。連携している主な関係機関はご覧のとおりです。スクールソーシャルワーカーは、環境を整える、福祉資源を紹介すること等が主な役割です。児童生徒が抱える問題や、取り巻く環境に適した関係機関につなぎ、協力して支援にあたります。

最後に教育相談班の課題と来年度への方向性です。児童生徒、保護者、教職員の様々な悩みや課題、問題に対して、事例研究会の実施や学校、関係機関との連携を大切にしながら、丁寧かつ適切な相談が行えるよう、引き続き努力してまいります。また、令和6年4月開設の第2サポートルームの充実を図ってまいります。スクールソーシャルワーカー配置事業に関しては、次年度は拠点校配置2年目となります。今後も問題の早期発見・早期対応をめざし、拠点校配置の強みを活かして更なる周知を進め、児童生徒の抱える問題の解決に努めてまいります。

以上です。ありがとうございました。

相田慶子  
副主査

サポートルームから報告いたします。事業報告書の 30 ページをご覧ください。サポートルームでは、こちらの 4 つに取り組みました。

まず、(1) 児童生徒に対する支援についてです。令和 5 年 12 月までの受理人数は 89 名です。昨年度の 12 月までは、92 名なので、ほぼ同じ人数になっています。12 月の 1 日平均通室人数は 15.38 人。昨年度よりは少なくなっていますが、今年度の傾向として多い日は 20 名を超え、少ない日は 10 名程度とバラツキがあります。その要因としては、すぐに毎日通室を開始するのではなく、自分のペースで通い始め、慣れてきたら滞在時間を延ばしたり、1 週間で来る日を増やしたりするなど、様子を見ながら通室する子が多くなっているからだと考えられます。

こちらは支援の内容です。

個別学習の様子です。今年度は Wi-Fi 環境を整備し、学校配付の端末も使用できるようにしました。製作活動では時間内に終わるように手順の簡略化、絵などで説明をしてわかりやすくしました。その結果、最後まで作り上げることができ、小さな成功体験につながっています。

運動の時間です。校庭や体育館、3 階プレイルームで、小学生から中学生まで、みんなで協力して楽しく活動しています。

こちらは今年度の体験活動です。スポーツや調理体験、博物館や科学館の見学など行いました。普段、外出することが少なかったり、在籍校の校外学習に参加できなかったりした児童生徒も多いので、良い経験となっています。また、コミュニケーションがとれるようになったり、友だちができて定期的な通室につながったりしています。

次に保護者に対する支援はこちらです。年 3 回開催しているリフレッシュ講座は、不登校支援に関わる先生にお話をさせていただいていました。今年度、初めて「不登校経験者」として、実際に小中学生時代に不登校となってひまわりで過ごした経験を持ち、現在は教員としてご活躍されている藤嶋先生にご自身の経験を踏まえて話をいただきました。参加された保護者からは、「経験者の話が聞いて良かった」「子どもの将来が不安だったが、勇気づけられた」などの感想をいただきました。

次に令和 6 年 4 月に古和釜中学校に開設する第 2 サポートルームです。「すずらん」という愛称は、現在「ひまわり」に通室している児童生徒から募集し、決定しました。すずらんには「幸せの再来」という花言葉があり、今大変な状況にある自分たちにも、また幸せが訪れると信じて、毎日を過ごせるように、という思いが込められています。船橋市の北部に位置する古和釜中学校に開設することで、北東部在住の児童生徒が通室しやすくなります。教室やプレイルーム、面談室などが完成し、4 月の開室に向けて最終段階になっています。

最後に課題と来年度の方向性です。特に重点をおいて取り組むことは、学習の機会を確保するために学校配付端末を有効活用し、学校と連携して学習環境をさらに充実させること、開室初年度となる「すずらん」の運営について、「ひまわり」と連携しながら、児童生徒にとって「居心地」が良くなるよう環境面を整えていくことの 2 点です。

以上でサポートルームの事業報告を終わります。ありがとうございました。

兼坂尚貴 委員長	<p>ありがとうございました。それではこの後、質疑応答に移りたいと思います。</p> <p>令和5年度の事業報告に関しての質問やご意見、また今後に向けた要望等ございましたら、ご発言いただければと思います。よろしくお願いします。</p>
山本稔 委員	<p>質問というか希望になるかもしれませんが、教育フェスティバルに参加させていただきまして、とても保護者にとって良い機会だなと思いました。そこで伺いますが、以前行っていたような体験型の内容を復活させる考えはありませんか。来年度以降の見込みを教えてください。</p>
太田由紀 所長	<p>私からお答えします。体験ブースがあった頃の教育フェスティバルを自分も体験しているのですが、活気があって、来場者も非常に喜んでいただけたという記憶があります。しかし、運営上、キャパシティを超えてしまう面があります。駐車場が満車となり近隣の渋滞を引き起こすことなどを考えると、今年度も昨年度と同様の形で実施しようということになりました。現在のところ次年度以降も今年と同じ規模で計画しております。</p>
山本稔 委員	<p>わかりました。加えていいでしょうか。作品展についても広く展示していただけて良かったと思います。特に市役所における社会科作品展はとても反響が良かったと聞いています。ぜひとも今後も続けていただきたいと思います。</p> <p>二つ目の質問ですが、市民大が総合教育センターの7階を使うようになって、多くの地域の方々が出入りするようになってきています。私もそのうちの1人ですが、心配している点は、相談室へ出入りする保護者やお子さんと市民大の利用者の動線が一致して、相談者が気にならないかということです。心配はないでしょうか。</p>
八巻知子 副主幹	<p>お答えします。相談者の駐車場を別のスペースに設ける、教育支援室専用の入口を用意するといった対策をとっています。正面玄関から来所される方もいますが、正面から入ってすぐ左側の待合場所に案内されるので、市民大利用者との接点は少ないです。今のところ不安の声はあがっておりません。</p>
山本稔 委員	<p>ありがとうございます。安心しました。</p>
松澤秀則 委員	<p>2点、質問させていただきます。先ほどの研究研修係の報告で、希望者が少なかったという話があったのですが、募集の際、どのように行ったのかを知りたいと思います。例えばこういう研修があるよという簡単な説明だけなのか、あるいは実際に参加された方の声、アンケートの内容等を載せるなどの工夫をしておられるのかをお聞きしたいと思います。</p>
高橋憲史 副主幹	<p>お答えいたします。今年度につきましては、希望研修の講座名が載っている印刷物を各学校に配付し、掲示をして職員にお知らせくださいという形で終わってまいりました。しかし、今年度の希望研修の受講者数の状況を受け、我々としても周知方法を検討する必要があると考えております。例えば、研修一覧に二次元コードを付け、そこから今年度の受講者の感想を見ることができるようにする形で、職員が研修を選ぶ参考にさせていただけるよう計画しております。また、千葉県教育研究会船橋支会において、研究研修係が次年度の希望研修について説明する予定です。今後も周知方法について検討してまいります。</p>



<p>松澤秀則 委員</p>	<p>ありがとうございます。非常にありがたいお話でした。受講者の声を聞くことができれば、参加しようという意欲が増すと思います。取り組みの結果を詳細に分析し、さらに研修を魅力あるものにしていただければと思います。</p> <p>2点目ですが、情報教育係に関して伺います。もうすでに端末整備を終え、児童生徒に1台ずつ配付されている状況となっていると思いますが、今度は更新等の問題が出てくると思います。機器の維持管理は非常に大変なので、業者や、あるいはサポートしていただいている支援員の協力も得ながら、進めていただければと思います。</p> <p>今までは教育教材を直接見せるといった利用が多かったと想像しますが、最近はコミュニケーションツールとして情報機器を使うといったように変化しております。その辺について、学校の先生方に情報提供を行っているのでしょうか。</p>
<p>豊田浩久 副主幹</p>	<p>お答えさせていただきます。ICT支援員が毎月事例をまとめ、各学校でその内容を見られるようにしております。それから情報教育係からも各学校での事例を情報教育便りとして各校に配付しております。また、情報教育の研究校が作成した研究紀要も配付しておりますので、それらを参考にしてほしいと考えております。</p> <p>端末を人と人とのコミュニケーションを補助するものとして使っていくこと、学習を1人で進めるツールとして使用することの両面で活用することを考え、推進しております。先日、端末更新について文部科学省の説明があり、一問一答の学習ではなく、答えがない学びが必要だという話がありました。コミュニケーションツールとして使用するため、共同ツールを使って学習していくことを学校で進めてほしいと考えております。</p> <p>日本の教育は、学力の正規分布で山の中心の子に焦点が当てられてきましたが、今後は山の中心以外の子供たちも自己調整学習を行うなど、個別最適な学びが推進されるよう端末を更新していく必要があります。指導課とも連携しながら、計画をしっかり進めていきたいと考えております。</p>
<p>松澤秀則 委員</p>	<p>情報を得るのは大変だと思いますが、児童生徒、先生方、そして保護者が十分活用できる環境を作っていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>兼坂尚貴 委員長</p>	<p>ありがとうございました。せっかくの機会ですので、総合教育センターのあり方や要望等について、それぞれの委員の方からご意見をいただきたいと思います。感想でも結構です。</p>
<p>白石正義 委員</p>	<p>本日はありがとうございました。この委員会に参加させていただき、新ためてこの総合教育センターの全ての事業に学校現場は支えられていることを感じております。せっかくですので何点か感想を述べさせていただきます。</p> <p>まず1点目ですが、今年度、幸いなことに「日々学べる音楽」という研修の講師をやらせていただきました。どんな研修にしようかと悩んだ結果、ワークショップ形式でやってみることにしました。参加された先生方と仲良くなることができまして、改めて船橋には学ぶ、やる気のある先生方がたくさんいることを知り、非常に嬉しくなりました。先生方から元気をもらい、学ばせていただくことができ、貴重な機会だったと思っております。研修が充実することで先生方の繋がりも増えていったらいいなと思いました。</p>

	<p>次に、私は行けなかったのですが、教務主任会の部会メンバーで県外視察を行い、その報告をまとめさせていただきました。ICT活用の視察でしたが、すでに船橋で行っていることが多くありました。船橋がICT活用に力を入れていることに気づき、恵まれた環境で教育を進められていることを非常にありがたいことだなと感じました。ICT活用を進めるなかで、情報モラルや情報リテラシーについてしっかり深めていきたいと考えております。</p> <p>3点目は特別支援教育についてです。今年度、初めて特別支援学級の担任を務めさせていただきました。本校は21人の児童が在籍していますが、21人いれば21通りの個性があり、支援があります。予想を超える苦労がありましたが、それ以上の喜びを子供たちからもらいました。そのなかで特別支援教育班の先生方は、子供と保護者の人生に大きく関わるような決断をされているのだなと強く感じました。</p> <p>最後に、先ほどの報告にもありましたが、人材育成が課題であると思っています。私は特別支援学級担任を初めて経験させていただきましたが、この時期にやれてよかったと思っています。今だからこそ何とかやり切ることができ、様々なことに気づき、今後に生かせると感じています。若い頃であつたらどうだったでしょうか、初任であつたら大変だっただろうと思います。今後も特別支援教育に関わる教員が増えていくので、試行錯誤しながら、長期的な人材育成の観点を持つ必要があるのではないかと考えます。本校においても、来年度以降、そういったことを考えて研修を企画し、個別支援が充実した学校となるよう努力していきたいと思っています。</p> <p>本当に1年間どうもありがとうございました。</p>
<p>鰐部裕実 副主幹</p>	<p>人材育成については、様々な課題を抱えており、来年度どのようにしていくべきかを検討しているところです。特別支援教育研究連盟に委託し、大体月1回、学級担任への研修会を知的障害、発達障害、言語障害部会に分かれて行っていただいております。市としても、若年の特別支援学級担任の先生向けの研修を、研究研修係と連携して実施する方向であります。また、葛南教育事務所からの話で、他市も同様の課題を抱えており、県として情緒学級の研修会を実施するとのことでした。それから初めて特別支援学級担任となる先生方につきましては、特別支援教育班の指導主事が、年度当初に各学校を回り支援していく計画をたてております。ご協力よろしく申し上げます。</p>
<p>兼坂尚貴 委員長</p>	<p>ありがとうございました。中学校からということで藤井先生、いかがでしょうか。</p>
<p>藤井友理子 委員</p>	<p>三田中学校の藤井です。今年度、運営委員として携わることができて本当に良かったです。内容をしっかり持ち帰り、様々な場面で伝えていきたいと思っています。それではいくつか感想を言わせてください。</p> <p>研修研究係からあった希望研修の受講者数が少ないという点ですが、年度初めの短い期間での募集なので、もう少し募集期間が長くなると人数が増えると思います。2月の船橋支会の中で来年度の希望研修についてお話があり、次年度の研修パンフレットをいただきましたので、それを見て希望研修を受講してみようとする先生方も多いと思います。また、教務主任のなかで希望研修を積極的に受けてくださいという通達があれば、もう少し増えるのではないかと思います。</p>

	<p>次に算数数学チャレンジについてですが、私は数学科なので学校のなかで携わっています。3年生の数学が得意な子供たちが実力を競うことを楽しみにしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。</p> <p>情報教育係につきまして、ICT支援員の配置は本当に助かっております。この1年間で校内ペーパーレス化やICT化が進み、授業参観や学校評価において、集約を担当が行わなくてもよくなりました。来年度もより一層、校内のICT化が進んでいくと思います。その中で充電ケーブルの破損やタブレットの破損が増えていますので、申し訳ありませんが、修繕につきましてもよろしくお願いいたします。</p> <p>教育支援室には特別支援教育班、教育相談班、またサポートルームもあり、それぞれ本当にお世話になっております。色々な悩みを抱える生徒が年々増えており、また、生徒だけでなく保護者の悩みも増えていると感じています。これからどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>高橋憲史 副主幹</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次年度の研修について、4月当初に各校に配付する研修一覧表をできるだけ早い段階で皆さんにお配りしたいと計画しているところです。</p> <p>12月ごろに各校に通知しておりますが、申し込み方法が今までのアストラから文部科学省の新システムによる申し込みに変わります。新しいシステムについては我々もまだ把握できていないところがありますが、学校、先生方にご迷惑をかけないよう進めていきたいと思っております。</p>
<p>兼坂尚貴 委員長</p>	<p>それでは鬼崎委員、お願いします。</p>
<p>鬼崎あずさ 副委員長</p>	<p>様々な総合教育センターの事業に支えられていることを改めて感じました。総合教育センターの方々が大変なご苦勞をされて、我々を支えてくださっていることに感謝いたします。いくつか感じたことをお話しさせていただきます。希望研修がなぜ集まらないのかということ振り返ってみると、正直なところ4月当初は忙しく、悉皆研修ならわかるのですが、希望研修までなかなか頭がいかないです。周知の段階で具体的にこの研修で何をするのかをもう少し詳しく伝えていただけると助かります。4月の一番忙しい時期に気づかり焦って、自分が受けたい研修を選べていない気がします。もう少しゆっくり選べる時間がほしいと思います。大事なことだと思うのでぜひお願いしたいです。また、先ほど担任の先生たちを支えるような研修を来年度から計画していただけたという話がありました。とてもありがたく思います。</p> <p>ICT活用について、特に私と同じぐらいの年齢の教員は、どうしても苦手意識が拭い切れない部分があります。ICT支援員がサポートしてくれるのですが、やはり若い教員のスピード感についていけず、正直苦しい状況です。難しいとは思いますが、サポート体制がもう少しできたなら、確実に校内で使われるようになっていくと思います。</p> <p>教育支援室について、本校も特別支援、教育相談では大変お世話になり、ありがたく思っております。今後も不登校の数が絶対的に増えていくと思うので、ぜひ対応できる体制をつくっていただきたいと思います。</p>

兼坂尚貴 委員長	ICT活用について、学校間格差や学校内格差があるということでご意見がありました が、情報教育係から何かありますか。
豊田浩久 副主幹	<p>ICT支援員は週1回の派遣となっており、予算もかかることなので現状が精一杯のところ です。苦手な方はまずスモールステップでいいので、できるところからやってい ただきたいと思います。先進的な学校では、ICTを校務でよく使っています。朝の打ち 合わせをGoogleクラスルームで実施する、面談をWebで実施するなど、とにかく積極 的に使っていたきたいと思っています。</p> <p>次に、組織として得意な教員をうまく活用して研修などを企画することです。担当 だけに任せるのではなく、学校全体でICTの力を高めていかななくてはならないので、 お願いしたいと思います。</p> <p>最後に、子供たちにとってICTは鉛筆や消しゴムと同じ文具として使いこなせるこ とが当たり前の時代になっています。教員が使えないから使わせないとか、わからな いから制限するとかではなく、子供たちに任せて端末を自由に使わせる中で、学び方 や考え方を習得するという考えに変えていく必要があります。どうしても教員は一斉 授業の感覚が強いですが、情報モラル等の問題も含め、子供たち自身が端末を使いな がら学んでいくことが大事になると思います。</p>
兼坂尚貴 委員長	わかりました。ありがとうございます。それではPTA連合会の池田委員お願いしま す。
池田枝里 委員	<p>報告内容、皆さんのご質問を含め、これだけのことをされているのだという感謝の 気持ちでいっぱいです。</p> <p>PTA連合会では今月2日にインクルーシブ教育理解学習会というものを開催いたしま した。インクルーシブと言っても、一般の保護者の方には聞きなれない難しい言葉と いう感じですが、共生共存の社会はすぐそこにあるということに気づいてもらうため に企画しました。講師の方にはだいたひ内容を砕いた講演をしていただき、ウェブ参加 も含め、50名の保護者の方にご参加いただきました。</p> <p>通常ですと公演終了後は皆さんすぐお帰りになるのですが、参加者のほとんどが1 列に講師の方の前に並び、一言二言挨拶を交わされていました。後で講師の方にど のような質問や会話があったのかをお聞きしたところ、大半が不登校に関する内容と のことでした。コロナ禍により、状況が一気に加速しており、1クラスで3分の1から4 分の1ぐらいの不登校児童生徒がいるという統計も聞いております。今後も支援に力 を入れていただきたいと思っています。</p> <p>一人一台端末が教室に通っている児童生徒だけでなく、不登校の子供たちにも活用 が進んでいくことを期待しています。自宅で授業が受けられたり、クラスで今何が起 こっているのかをリアルタイムで知ることができれば、不登校で悩む子供たちと学校 との距離を少し縮めることができるのではないかと思います。</p> <p>以上です。</p>
兼坂尚貴 委員長	学習方法だけでなく、不登校の対応にも活用できるのではないかといいこと でした。情報教育係から何かありますか。
豊田浩久 副主幹	ご意見、ありがとうございます。ある中学校の事例として、校内の不登校対応の教室 において、自分のクラスの授業をオンラインで配信し、それを見ながら授業に参加する

	<p>ことを行っております。今後はそういう使い方も各校で進んでいくと思います。</p>
兼坂尚貴 委員長	<p>ありがとうございます。それでは社会教育課の藤井課長、お願いします。</p>
藤井好実 委員	<p>社会教育課の藤井でございます。本日ありがとうございます。本当に ICT や特別支援教育といった大きな課題を、一つ一つ真摯に、前向きに取り組まれているなど感心いたしました。</p> <p>社会教育課としましては、令和6年度から地域学校協働活動という事業を始める準備を進めております。これは令和6年度には全校がコミュニティスクールになるということで、委員の方お一人に地域学校協働活動のコーディネーターになっていただいて、地域活動に繋げていこうという取り組みになります。既に地域の方が学校の環境活動に参加したり、公民館のサークルの方が学校のクラブ活動の支援に入るなど、様々な形で地域と学校が連携しておりますが、この地域学校協働活動により、さらに子供たちの学びを支え、学校を核とした地域作りに繋がりたいと考えております。既に公民館と学校が繋がるきっかけとなるような研修を行っていただいておりますが、社会教育課としてもそのような活動の準備を進めておりますので、お願いしたいことがあった際はご協力いただけると助かります。以上です。</p>
兼坂尚貴 委員長	<p>続いて指導課の茂木課長、お願いします。</p>
茂木義久 委員	<p>指導課の茂木でございます。本日はありがとうございます。指導課と総合教育センターはほとんどやっていることが一緒というか、肩を並べて互いに協力しているといった感じです。</p> <p>総務係については、築36年という建物の維持管理は本当に大変だと思います。また高額な予算を執行しているということで、指導課と重なる部分があるかと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>研究研修係については、研修履歴システムと研修体系が変わるということで、各校にわかりやすく周知することが必要だと感じています。希望研修については、募集期間を長めにするとか、研修日の何日前までに申し込むといった形にすれば、受講者は増えるのではないかと思います。学習バスについても非常に苦慮されていると思いますが、校長先生方からは感謝しているという声をよく聞きます。契約等、大変かと思いますが、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>情報教育係について、学校訪問をしている中で低学年への電子黒板の配置について感謝の声が上がっておりました。研究校についてですが、指導課も研究指定、研究奨励を行っているところです。どうしても小学校と中学校の数が倍近く違うということで、中学校の負担を軽減するため、指導課としては見直しを行っているところです。情報教育に関する研究指定についても連携して進めていければと思います。</p> <p>特別支援教育班について、県の人事異動方針にもありますが、若手教員の異動の際、特別支援学校への異動を積極的に推進することになっておりますので、研究研修係と連携し、若年層に特別支援教育の良さを発信する研修を入れていくことも一つの方法かと思っております。</p>

	<p>教育相談班について、先ほどの事業報告で不登校の相談が一番多いとのことでした。来年度、指導課でも不登校対応に力を入れていきたいと考えており、校内教育支援センター、いわゆる不登校支援教室に小学校はスクールアシスタント、中学校はピアサポーターを配置することを考えているところです。また、新しくサポートルーム「すずらん」が開設されるということで、指導課も総合教育センターと連携、協力し対応していきたいと思います。</p> <p>次年度、指導課に「児童生徒サポート室」ができ、人員を増やし、不登校、いじめ、生徒指導、問題行動に対応していきたいと考えているところです。以上です。</p>
兼坂尚貴 委員長	<p>ありがとうございました。他にありませんか。</p>
山本稔 委員	<p>働き方改革で「残業しない」「年休を取る」という動きが加速していますが、そのなかで総合教育センターではプラネタリウムの改修、第2サポートルームの開設という新しい事業が動き出します。総合教育センターの職員の皆様につきましては、本当に体に気をつけて務めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
兼坂尚貴 委員長	<p>ありがとうございました。最後に総合教育センター所長、お願いいたします。</p>
太田由紀 所長	<p>本日はお忙しい中、総合教育センター運営委員会にご参加いただき、誠にありがとうございました。様々なお立場からのご意見やご感想は、非常に貴重なものだと感じております。事業報告でもありましたが、現在、教育界では不登校支援、障害のある子供たちの支援、GIGA スクール構想の推進、さらには若手教員の育成など、非常に喫緊かつ重要な課題が山積しております。総合教育センター所管業務について、今後も気を引き締めて取り組んでいきたいと今日改めて感じた次第です。委員の皆様の多角的で専門的なご意見を参考にし、児童生徒の10年後20年後の理想像をしっかりと持ちながら業務運営を行っていきたいと考えております。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。あわせて1年間、委員をお引き受けいただきましてありがとうございました。以上でございます。</p>
兼坂尚貴 委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日子定された議事の一切を終了いたします。ご協力ありがとうございました。これで議長をおりさせていただきます。</p>